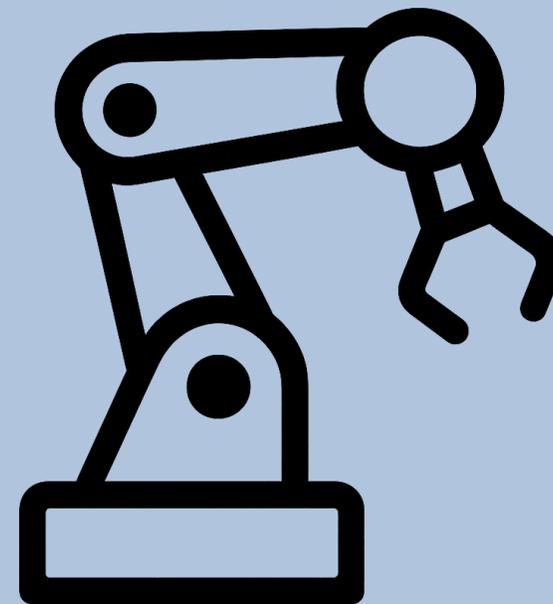


ロボットアーム導入 まるわかりガイド

これ一冊で導入の不安ゼロ。基礎から導入ステップまで完全解説



目次・本資料について

- 1 表紙
- 2 目次・本資料について
- 3 世界・日本のロボットアーム市場動向
- 4 業界別導入傾向・最新トレンド
- 5 ロボットアーム導入の3大メリット
- 6 定量データでみる導入効果
- 7 活用事例（製造業・自動車）
- 8 活用事例（物流・医療・食品）
- 9 導入プロセスの全体像
- 10 導入前の検討ポイント
- 11 製品選定のためのスペックチェック
- 12 協働型 vs 産業用ロボットの違い
- 13 システム連携・インテグレーション
- 14 設置環境と安全対策
- 15 導入コストとROI算出方法
- 16 他社製品比較で見るポイント
- 17 長期運用を支えるサポートと保守
- 18 現場の生の声：成功・失敗実例集
- 19 導入成功のための5つのポイント
- 20 ご相談・お問い合わせ窓口

対象読者

- 製造業の自動化・生産技術担当者
- 物流センターの設備導入責任者
- 工場DXを推進する管理職・担当者
- 省人化・効率化を検討する経営層
- ロボット導入を計画中の現場責任者

本資料の活用方法

- 導入検討の初期段階での情報収集
- 経営層への説明・提案資料として
- 具体的な製品比較・選定の指針に
- 導入計画策定の手順書として
- 失敗を避けるためのチェックリスト

 **本ガイドのポイント：** PDFの参考資料や各種統計データに基づく実践的な情報を掲載。導入前の検討から、選定、運用まで、ロボットアーム導入の全プロセスを網羅しています。各ページはそれぞれ独立した内容ですので、関心のある項目から順に参照ください。

世界・日本のロボットアーム市場動向



💡 世界市場は2024年から2032年までに**2.8倍**の成長を見せる一方、日本市場も2033年までに**2.3倍**に拡大予測。自動化需要の急速な拡大が主要な成長要因です。

世界市場規模 (2024年)

約19.9億ドル

≒約2,900億円

2032年予測 → **55.5億ドル (2.8倍成長)**

📄 出典：Fortune Business Insights

日本市場規模 (2024年)

約11.7億ドル

≒約1,300億円

2033年予測 → **27.1億ドル (2.3倍成長)**

📄 出典：IMARC Group

日本国内稼働台数 (2023年)

約43.5万台

前年比+5%

📄 出典：IFR World Robotics Report

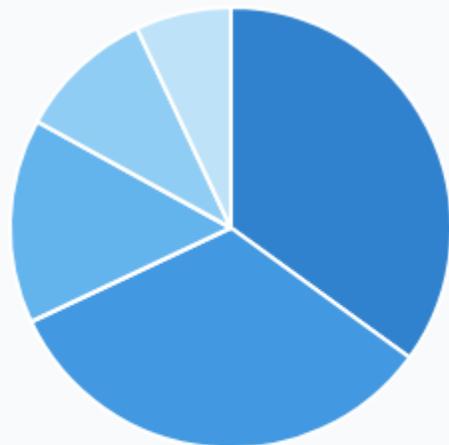
年間導入台数 (2023年)

46,106台

中国に次ぐ世界第2位

📄 出典：IFR World Robotics Report

業界別導入傾向・最新トレンド



■ 自動車産業 35% ■ 電機・電子産業 33% ■ 一般産業 15%
■ 食品・医薬品 10% ■ その他 7%

① 自動車産業と電機・電子産業が主要な導入先として約7割を占めています。食品・医薬品分野でも近年導入が増加中です。

成長分野：食品・医薬品業界



食品業界では盛り付け・検品・包装工程での導入が進み、医薬品では無菌作業や精密ハンドリングでの活用が拡大。近年は両業界とも年間15%以上の成長率。

ロボットアーム導入の主要推進要因



深刻化する人手不足

少子高齢化による労働人口減少が加速し、製造現場の人員確保が困難に



生産性向上の要請

国際競争力維持のため、24時間稼働・高効率生産体制の構築が急務



労働安全性への配慮

危険・高負荷作業からの作業解放と安全な労働環境整備



技術進歩と導入ハードル低下

協働ロボットの普及や操作性向上により中小企業での導入も拡大

電気自動車(EV)シフトの影響



EV普及に伴い電池組立向けロボット需要が急増。従来の自動車工場では1つのラインに50~100台のロボットが稼働するケースも。

ロボットアーム導入の3大メリット

1. 生産性向上

人手では難しい24時間連続稼働が可能となり、生産能力が大幅に向上します。一貫した速度で作業を継続でき、休憩・シフト交代の影響を受けません。

また、単純作業の工数削減により、人材を付加価値の高い業務へ再配置できるため、企業全体の生産性が向上します。

2. 品質・精度安定化

人の作業では避けられないばらつきを低減し、常に一定の品質を維持。特に繰り返し精度が求められる作業で高い効果を発揮します。

生産現場における不良率の削減にも直結し、歩留まり向上による材料コスト削減や品質検査工数の削減も実現します。

3. 労働安全強化

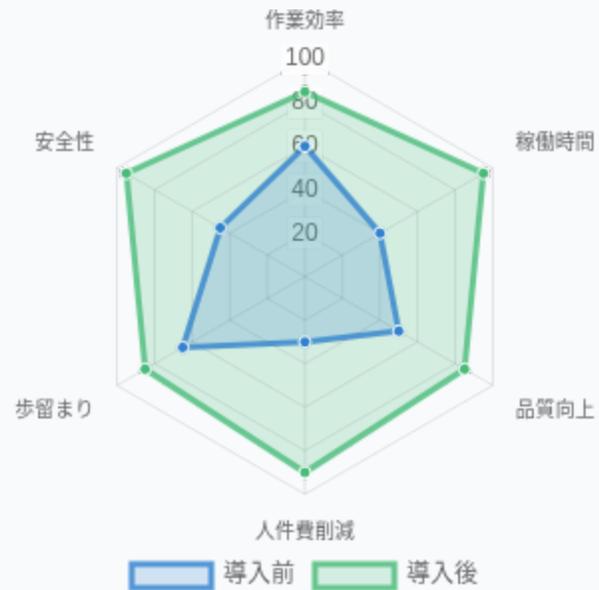
危険・汚い・きつい、いわゆる3K作業の代替が可能となり、作業者の負担軽減と安全な労働環境を実現。従業員の健康維持や職場満足度向上にも貢献します。

危険工程を機械化することで労働災害事故を低減し、安全管理コストの削減と企業リスクの軽減にもつながります。



💡 ロボットアーム導入により、これら3つのメリットが連鎖的に作用し、企業の競争力強化と持続可能な生産体制の構築につながります。

導入効果の具体例（定量的データ）



① ロボットアーム導入により、人件費削減だけでなく生産効率や品質の向上など複合的な効果が得られます。多くの企業では2～3年での投資回収を実現しています。

作業効率向上

平均30%アップ

製造工程の効率化と処理速度の向上

稼働時間の拡大

24時間稼働可能

休憩なしの連続稼働による生産能力向上

不良品率の低減

最大67%削減

精度と安定性の向上による品質改善

人件費削減効果

年間約1,000万円

※中規模工場の導入事例（7人→2人体制）



歩留まり向上

15～25%改善

材料ロス削減



リードタイム短縮

最大40%削減

工程間の待ち時間削減



労働災害

90%以上削減

危険作業の代替

業種別活用事例① (製造業・自動車)



溶接

高精度なスポット溶接・アーク溶接による品質安定化と生産速度向上



組立

複雑な部品組立の自動化による作業効率化と精度向上



塗装

均一な塗装品質と有害物質からの作業員保護



検査

画像検査・寸法測定の自動化による不良率低減

① 自動車産業は全体の産業用ロボット需要の約35%を占め、最大の導入セクターとなっています。一台の車両製造には数十～数百もの工程でロボットが活用されています。

自動車製造におけるロボットアーム活用

自動車業界では、高い品質基準と大量生産の両立を実現するため、1980年代から積極的にロボットアームを導入。特に大型ロボットによる車体溶接・塗装が主流です。

近年は協働ロボットの導入も進み、人との協調作業による組立工程の効率化が進んでいます。中型部品の組付けや精密検査など、より細かい作業にもロボット活用が拡大しています。

電気自動車向け需要急増

電気自動車(EV)の生産拡大に伴い、バッテリーセル組立・検査工程向けのロボット需要が急増しています。特に高精度な位置決めと一定の力制御が必要なバッテリーパック組立では、専用のロボットシステムが開発・導入されています。

部品製造での活用

自動車部品メーカーでも小型～中型ロボットの導入が進み、特に人手不足が深刻な夜間シフトでの無人化・省人化に貢献しています。金属加工・樹脂成形・電子部品実装など幅広い工程で活用されています。



自動車工場の導入規模

1ライン50～100台

大規模な自動車工場では工場全体で数千台のロボットが稼働



EV電池組立向け需要

年率25%以上の成長

バッテリーセル・モジュール・パック組立の各工程で活用

業種別活用事例②（物流・食品・医療）



物流業界

ピッキング



ビジョンシステムと連携し、多様な形状・重量の商品を高精度に認識・取得

自動仕分け



宛先情報に基づく高速仕分け、24時間連続稼働で処理能力向上

パレタイズ



箱・袋物の最適積載パターン自動計算と高速パレット積み付け

AGV・自動倉庫と連携し、完全自動化物流システムを構築するケースが増加



食品業界

盛り付け



精密動作による均一な盛り付け、高速処理で生産性向上（弁当・惣菜）

検品・異物検出



AIビジョン連携による高精度な品質検査、異物混入検出率99.8%

包装・梱包



柔軟物（パン・菓子等）の変形しにくい適切圧での包装処理

食品衛生対応の専用ロボットアームで清潔さと安全性を両立



医療業界

無菌・精密作業



完全無菌環境下での医薬品調合・細胞培養の自動化、交差汚染防止

ラボ自動化



PCR検査・血液分析など大量検体の24時間処理、人的ミス削減

手術支援



超精密・微細動作による手術支援、術者の疲労軽減と成功率向上

医療分野では高精度・安全性・トレーサビリティが特に重視される

業界共通の導入効果



人手不足解消と作業効率化



品質安定化と生産性向上



危険・繰返し作業からの解放

導入プロセス全体像（7段階）

1 社内検討

現場の課題抽出、自動化ニーズの整理、予算・目標設定

2 現状分析

作業工程の分析、自動化候補工程の選定、要件定義書の作成

3 パートナー選定

Sler・メーカー複数社の選定、提案依頼、見積評価

4 PoC実施

小規模実証実験、技術検証、運用テストによる課題抽出

5 詳細設計

本格導入に向けた仕様決定、導入範囲確定、運用計画策定

6 据付・調整

ロボット設置、周辺機器連携、安全設備導入、初期設定

7 試運転・本稼働

操作者教育、運用マニュアル整備、段階的な生産切り替え

導入期間の目安：6か月～1年以上

初動期（1～2か月）

社内での目標設定と工程分析
Sler選定と提案依頼

検証期（2～3か月）

PoC実施による検証
仕様確定・契約締結

実装期（3～6か月）

詳細設計・据付・調整
教育・試運転・本稼働

💡 **重要ポイント**：導入初期のニーズ・要件定義が不十分だと後工程で大幅な遅延が発生します。また、現場オペレーターの早期巻き込みが成功の鍵となります。

導入前の検討ポイント

🔍 業務・現場分析の徹底

まず自動化に適した工程の選定が重要です。全ての工程が自動化に適しているわけではなく、特に定型的で繰り返し作業が多い工程から検討します。

現場の作業内容を詳細に分析・記録し、ボトルネックとなっている工程や品質課題が発生している箇所を特定することが第一歩です。

🎯 要件定義・KPI設定

導入目的を明確化し、具体的な数値目標（KPI）を設定します。単なる「省人化」ではなく、生産性向上率、品質改善率、コスト削減額など、測定可能な指標を定めます。

例えば「不良率を現状の5%から1%以下に削減」「生産能力を30%向上」など、定量的な目標設定が後の効果検証にも役立ちます。

📊 ROI・投資効果の試算

初期投資額と運用コスト（ロボット本体、周辺機器、設計・導入工事、保守費用など）を詳細に洗い出し、投資回収期間を試算します。

一般的には2～3年での回収が目安とされますが、人手不足解消や品質向上など定性的効果も含めた総合判断が重要です。必要に応じて国の補助金制度も活用しましょう。

導入検討チェックリスト

📌 現状の作業時間・コスト分析
人件費、材料ロス、不良率など

📌 自動化対象工程の明確化
最適な適用箇所の選定

📌 数値目標（KPI）の設定
生産性・品質・コスト指標

📌 スペース・環境条件の確認
設置スペース・床強度・電源

📌 投資対効果（ROI）試算
2～3年での回収が目安

📌 導入後の運用体制検討
人材教育・保守計画

💡 事前の綿密な検討と計画が、導入成功の鍵を握ります

製品選定の基準とスペック

🏠 ロボットアーム主要スペック項目



可搬重量

搬送可能な最大重量。用途に応じて小型（～10kg）、中型（～50kg）、大型（50kg～）から選定



リーチ（動作範囲）

ロボットアームの最大到達距離。設置スペースと作業エリアの関係から最適値を選定



軸数

4～7軸が一般的。複雑な動作には6軸以上が必要。自由度と操作性のバランスを考慮



精度・繰り返し精度

同一点への繰り返し位置決め精度。精密作業には±0.02～0.1mm程度が必要

✅ 選定時の重要チェックポイント



性能適合性

可搬重量、速度、精度、耐久性が作業要件に合致するか



用途適合性

搬送対象物の形状・素材、周辺環境、必要なエンドエフェクタ（ハンド等）の互換性



ROI（投資収益率）

導入コストと期待される生産性向上、品質改善、人件費削減等の効果バランス



サポート体制

保守・メンテナンス、トラブル対応、部品供給、技術サポートの充実度



トータルコスト

本体価格だけでなく、周辺機器、設置工事、教育・研修、保守費用を含めた総額



世界4強メーカーの特徴を把握

ファナック、安川電機、ABB、KUKAの4社で世界シェアの約75%を占めています。各社の得意分野や製品ラインナップの違いを理解し、自社の用途に最も適したメーカーを検討することが重要です。日系メーカーは高い信頼性と豊富な導入実績が特徴です。



拡張性と将来性も考慮

将来的な生産ライン変更や新製品対応を視野に、プログラムの柔軟性、周辺機器との連携性、制御システムのアップグレード容易さも重要な選定ポイントです。

協働型vs産業用ロボットの違い

2つのタイプの特徴

産業用ロボットと協働ロボット（コボット）は使用目的や安全性、コストなどさまざまな点で異なります。用途や現場環境に合わせた適切な選択が重要です。

💡 選定ポイント：「どのような作業を」「どのような環境で」「どのようなコスト制約の中で」実施するかを明確にすることが選定の第一歩です。

- ✓ 現場スペースが限られている場合は協働型が有利
- ✓ 高速・重量作業では産業用が適している
- ✓ 人との共同作業が必要なら協働型を検討
- ✓ 高精度・大規模生産なら産業用が効果的

比較項目	 協働型ロボット	 産業用ロボット
安全性規制	+ 人との共存前提 衝突検知・速度制限機能標準装備	- 安全柵・光線式安全装置必須 特別教育者の操作が法的義務
用途適合性	✓ 小型軽量部品のハンドリング ✓ 人との協調作業 ✓ 頻繁な段取り替え作業	✓ 高速自動化ライン ✓ 重量物ハンドリング ✓ 高精度溶接・塗装
コスト	初期投資：300万円～ + 安全設備費用低減	初期投資：500万円～ + 処理速度で投資回収
スペース要件	+ 省スペース 安全柵不要で既存ラインへの組込容易	- 広いスペース必要 安全エリア確保が必須
生産性・処理能力	- 速度制限あり 安全のため動作速度制限	+ 高速・高精度 大量生産ラインに最適

選定のポイント



協働型を選ぶ場合：人との共同作業、頻繁な生産切替、限られたスペース、柔軟性重視の場合



産業用を選ぶ場合：高速処理、重量物取扱、高精度作業、大量生産ラインを構築する場合

システム連携・インテグレーションのポイント

🤖 ロボットアーム制御システム



PLC連携

生産ライン制御



MES連携

製造実行管理



ERP連携

経営資源計画



クラウド連携

遠隔監視・分析

📌 各システムとのAPI・インターフェース規格に準拠した連携が重要です。主要なI/O・ネットワークプロトコルに対応することで、スムーズな統合が可能になります。



ビジョンシステム連携

カメラによる画像認識で部品位置検出・品質検査を実現。ロボットアームに正確な座標を伝達し、ピッキング精度向上や不良品検出が可能。



フォースセンサー連携

接触圧力を検知し、繊細な力加減が必要な組立や研磨作業を実現。力覚フィードバックにより精密作業や柔軟物の取り扱いが可能に。



異種ロボット/AGV/自動倉庫連携

AGVによる部品搬送とロボットアームの組立作業の連携や、自動倉庫からの部品取り出しとロボットによる後工程の統合運用が実現可能。

🔗 高度制御・シミュレーション技術

デジタルツイン

仮想空間での動作検証・最適化により、実機導入前のリスク低減とプログラム効率化が可能

AIによる自律制御

機械学習により変化する環境や製品に適応し、柔軟な作業を実現する次世代技術

ロボット間協調制御

複数ロボットの連携により、大型ワークの共同搬送や複雑作業の分担処理を実現

設置環境と安全対策

設置環境基本要件



電源条件

三相 200V（大型）または単相 100V（小型）
消費電力：機種により300W～数kW



床強度・設置スペース

床耐荷重：最低500kg/m²以上を推奨
設置面積：アーム可動域に安全距離を加えた範囲

中小企業の課題と対策

課題 初期投資負担

ロボットアーム本体費用に加え、周辺設備・設置工事費

課題 技術者不足

プログラミングや運用に必要な知識・技術の不足

課題 設置スペース制約

狭い工場スペースへの適合性

対策 国の支援制度

- ものづくり補助金（最大1,000万円）
- IT導入補助金（最大450万円）
- リース・レンタルによる初期費用軽減

安全対策の必須事項



物理的安全対策

- 安全柵の設置（高さ1.8m以上推奨）
- 安全マットやライトカーテンの設置
- アーム可動範囲の明示（床面マーキング）
- 非常停止装置の設置（複数箇所）

安全教育とルール整備

- 特別教育義務：労働安全衛生規則第36条に基づく教育（学科6時間、実技5時間）
- 安全マニュアル：緊急時対応を含む運用ルールの明文化
- 定期点検体制：安全機能の定期確認と記録



協働ロボットの安全性

協働ロボットは人との共存を前提に設計

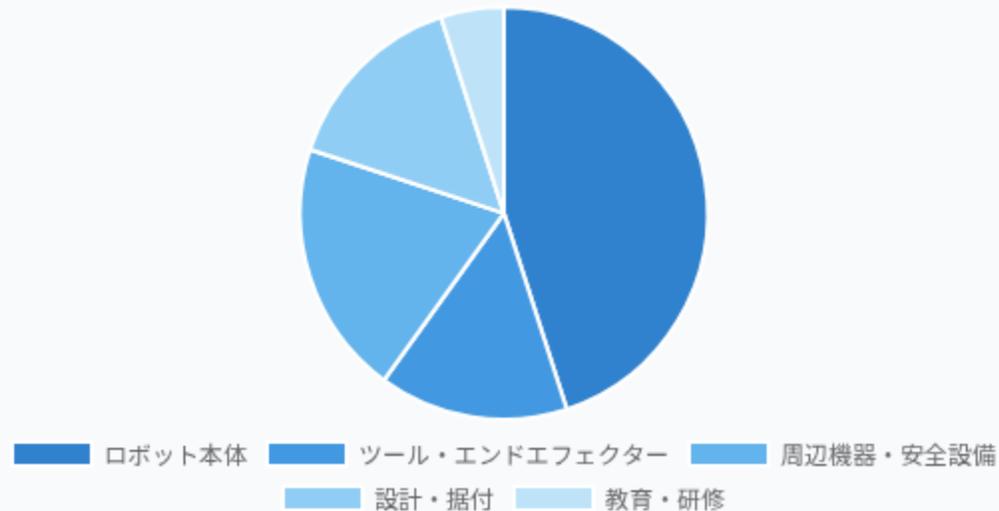
- 力覚センサによる衝突検知
- 速度・力の制限
- 丸みを帯びた形状設計

ISO/TS 15066に準拠

- リスクアセスメントの実施
- 用途に応じた安全機能の選択
- 定期的な安全点検の義務

コスト構造とROI

初期費用の一般的な構成比



初期費用の構成要素

-  **ロボット本体**
可搬重量・軸数・精度により数百万円～
-  **エンドエフェクター・ツール**
ハンド・グリッパー等：数十万円～数百万円
-  **周辺機器・安全設備**
安全柵・センサー・ビジョンシステム等：数十万円～
-  **設計・据付費用**
SIer委託費用：導入規模により変動
-  **教育・研修費用**
操作・保守に関する社内教育・特別教育費

💡 投資回収期間の目安

- 導入初期（～1年目）**
初期費用の支出期間。導入・調整・習熟が進む
- 効果発現期（1～2年目）**
生産性向上・品質安定化による効果が表れ始める
- 投資回収期間（2～3年目）**
一般的な投資回収達成期間（生産量・用途により変動）

ランニングコスト（年間）

保守費・電力費・消耗品費・保険料等

初期投資の約5～10%

📌 ROI向上と資金調達の選択肢

📺 補助金・助成金活用

ものづくり補助金、IT導入補助金など最大1/2補助

📈 段階的導入戦略

小規模実証から始め、効果確認後に展開拡大

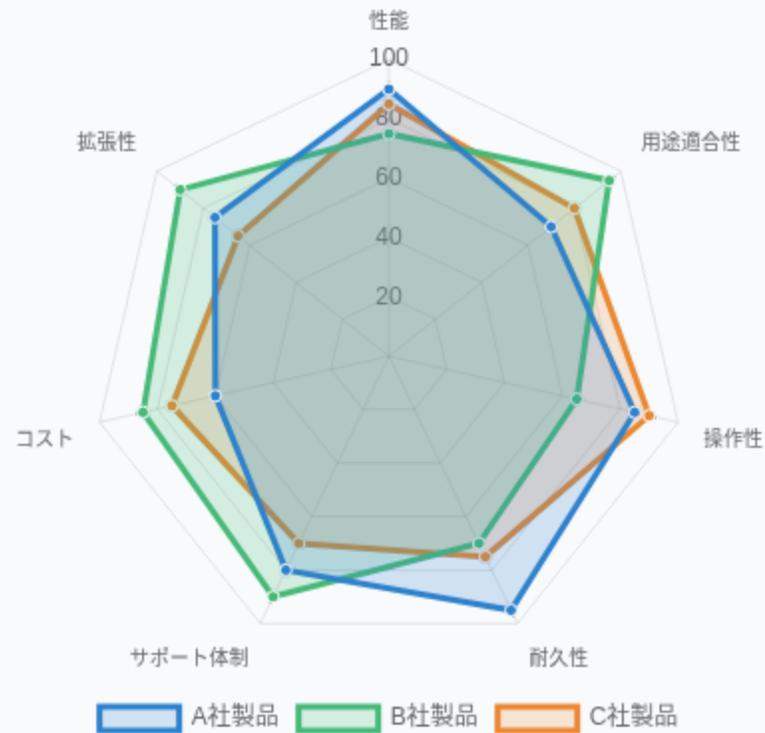
📄 リース・レンタル活用

初期投資抑制と経費処理による税務メリット

🔍 TCO（総保有コスト）分析

長期視点での導入効果評価による投資判断

他社比較のポイント



💡 製品選定には多角的な評価が必要です。単一の指標だけでなく、自社の用途に最適な製品を総合的に判断しましょう。各項目の重要度は導入目的により異なります。

🔍 性能評価

可搬重量・リーチ・精度・速度などのスペック面を定量的に比較。自社の作業内容に必要なスペックを明確にし、過剰性能でないかも検討。

🎯 用途適合性

製品の得意分野と自社の用途が合致するか確認。特定業界向け機能の有無、多様なツール対応などを評価。カスタマイズ性も重要な判断基準。

👉 操作性・使いやすさ

ティーチング（教示）の容易さ、インターフェースの直感性、プログラミング言語の習得難易度、マニュアルの充実度などを比較。

✂️ 耐久性・信頼性

MTBF（平均故障間隔）、保証期間、実績のある導入年数、耐環境性（防塵・防水・耐熱性）など、長期運用における信頼性を評価。

📋 製品選定時のチェックリスト

- ✔️ サポート体制（技術サポート・保守メンテナンス体制）
- ✔️ トータルコスト（初期費用だけでなく運用・保守費用）
- ✔️ 拡張性・将来性（機能アップデート・他システム連携）
- ✔️ トータルソリューション提案力（周辺機器・連携性）
- ✔️ 導入事例・実績（同業他社での導入実績と効果）
- ✔️ 運用教育・トレーニング体制（導入後の人材育成）

長期運用を支えるサポートと保守

✖ 予防保全と定期メンテナンス

主要メーカーでは定期点検プランを提供。稼働状況モニタリングによる予兆保全で突発的な故障を未然に防止します。

一般的に年1~2回の定期点検と部品交換計画の提案が含まれ、生産ラインの計画的なダウンタイム管理を実現します。

🎓 研修・教育制度

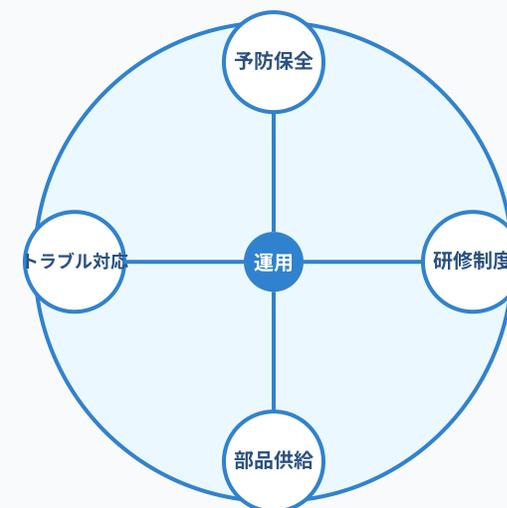
オペレーター向け基礎操作研修から保守担当者向け技術研修まで、段階的な教育カリキュラムを提供。社内での技術継承をサポートします。

最新のオンライン学習プラットフォームや技術マニュアル、トレーニング動画などの教育リソースも充実しています。

📞 緊急時対応とトラブルシューティング

多くのメーカーでは24時間対応のホットラインを設置。リモート診断システムによる即時サポートや、必要に応じた現地エンジニア派遣体制を整えています。

主要な故障事例と対応フローのデータベース化により、迅速な原因究明と復旧を実現。平均対応時間は4時間以内が目標とされています。



💡 **ポイント**：保守契約は必要経費ではなく、設備の長寿命化と安定稼働を実現する投資として捉えましょう。特に導入初期のサポート体制は、成功的な立ち上げの鍵となります。

現場の生の声：成功・失敗事例集

✔ 成功事例

🏭 生産性2倍を達成

自動車部品メーカーでは、ロボットアーム導入により部品組立工程の生産性が2倍に向上。深夜シフトの人員確保の課題も解決できました。

「24時間稼働により納期短縮と在庫削減が実現。予想以上のコスト削減効果も出ています」

👥 人員配置の最適化

食品製造工程のパレタイズにロボット導入後、作業員7名→2名体制への移行が実現。余剰人員は品質管理など高付加価値業務へシフト。

「単純作業からの解放により従業員満足度が向上。離職率も低下しました」

🕒 リードタイム短縮

電子部品メーカーでは、検査工程の自動化によりリードタイムを40%短縮。品質向上とともに出荷サイクルの大幅改善を実現。

💡 成功の共通ポイント

事前の緻密な計画、段階的な導入、現場作業員の巻き込み、充実した教育・訓練、継続的な改善体制の構築が成功の鍵となっています。

⚠ 失敗事例

👤 操作スキル不足

中小製造業では導入後に専門人材不足が露呈。プログラミングやメンテナンスができる人材の確保が遅れ、稼働率が低下。

「事前に教育計画を立てるべきでした。後手に回り、半年間は十分な活用ができませんでした」

⚠ 運用体制の不全

機械導入を優先し運用計画が不十分だったため、トラブル時の対応遅れや保守不足で故障頻発。結果的にコスト増に。

「機械があれば自動で回ると考えていましたが、運用体制作りが重要だと痛感しました」

🔧 工程選定ミス

変種変量生産の工程にロボット導入したため、頻繁な段取り替えでかえって非効率化。自動化に適した工程選定が必要でした。

導入を成功させる5つのポイント

1. 現場診断

自社に本当に適した工程の選定が重要です。現場の課題・業務フロー・人員状況を詳細に分析し、最適な自動化対象を特定しましょう。単純作業・繰り返し作業から始めるのが効果的です。

2. 段階導入

一度にすべてを自動化せず、小規模な試験導入から段階的に拡大していくアプローチが成功率を高めます。初期成功体験を積み重ね、知見とノウハウを蓄積しましょう。

3. 教育体制

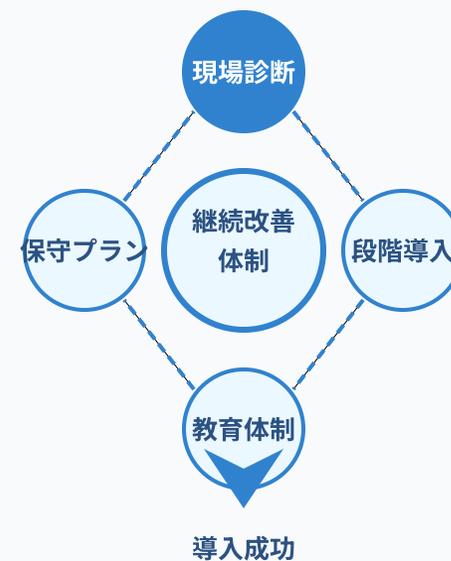
機械を導入するだけでは不十分です。操作・プログラミング・トラブル対応のできる人材育成が不可欠。メーカー研修に加え、社内でのOJTプログラムも整備しましょう。

4. 保守プラン

導入時に長期的な保守・メンテナンス計画も必ず策定しましょう。予防保全体制の構築、定期点検スケジュール、部品調達・交換タイミングなど具体的に検討します。

5. 継続改善体制

導入はゴールではなくスタートです。KPI設定・効果測定・定期レビューの仕組みを構築し、ロボットと人の協働体制を継続的に最適化する文化を醸成しましょう。



💡 これら5つのポイントはすべて連携しており、一つでも欠けると導入効果が大幅に低下します。特に人材育成と継続改善が長期的成功の鍵となります。

ロボットアーム導入に関するご相談・ご質問はこちらから

現場に合うロボットアームの選定や費用感、導入準備について、こちらからのご案内に加えて、個別のお問い合わせも随時受け付けております。

ご相談受付内容

ロボットアームのタイプ選定に関するご質問 現場環境や搬送物に最適なロボットアームの選定をサポートします

導入にかかる費用や期間

初期投資やランニングコスト、ROIや導入工程に関するご相談

カタログ・仕様書のご希望 各種ロボットアームの詳細資料や導入事例集をご用意しています

自社に適した導入可否の判断サポート

現場診断や業務分析に基づく最適な自動化提案をご提供します

ご連絡方法

 お問い合わせフォーム
<https://factory-dx-center.com/contact/>

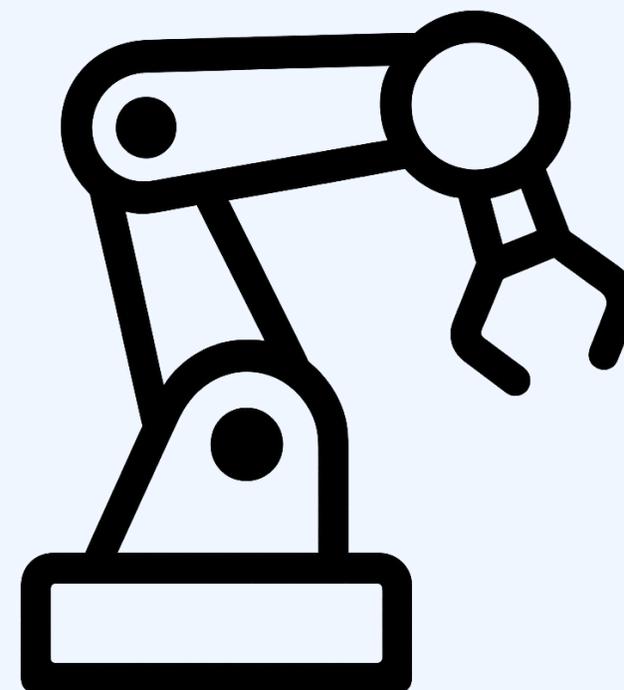
 対応時間
メール・フォーム 24時間受付（順次ご返信）

発行元

工場・物流DX導入センター

<https://factory-dx-center.com/>

製造業・物流業のDX推進をトータルサポート



ご不明点やお悩みごとは、お気軽にお問い合わせください。
専門スタッフが丁寧にご案内いたします。